

第3回 まちづくり市民協議会（第3分科会）会議録

日時：令和元年8月28日（水）18時30分～

会場：市役所3階第5会議室

出席者 委員 10人（欠席2人）
事務局 4人

1 開会

○ 事務局から開催形式等について説明

- ・今回は分科会形式で開催。本日は第3分科会（産業・都市関係がメイン）
- ・議事進行は事務局

2 事務連絡

- ・議事の進め方について
事務局から説明

3 協議事項

(1) 第2次光市総合計画評価書について

- ・第3分科会：産業・都市関係（基本目標4-2、5）
事務局から資料に基づいて説明ののち質疑意見等

●事務局

ただ今、事務局から説明した件について、ご意見・ご質問などがあればいただきたい。まずは、産業・都市関係（評価書10ページから13ページまで）についてお願いしたい。

●委員

農業の関係から。13ページ基本目標5-1-1②の成果指標「鳥獣による農業被害額（年度）」について。策定時の値（10,650千円）と目標値（10,630千円）は20千円しか差がなく、農地を取り巻く環境は、あまり変わらないのではないかと。また、同指標の近況値（10,947千円）は、策定時より増加しているが、目標を達成できるのか。

農業生産者として、一番困っていることは鳥獣による農業被害であり、いかに鳥獣の個体数を減らせることが重要だと考えるため、農業の振興に関する成果指標に「鳥獣の個体数（年間捕獲数など）」に関する項目が必要ではないかと。

鳥獣による農業被害が頻発する時期は、ちょうど今頃（8月下旬）であるが、狩猟の期間ではないことから、猟師ではなく、「わな猟」の資格をもつ生産者が対応を迫られる。

農業生産者が「わな猟」の資格を取得するには費用負担が生じる。資格取得にあたり、市による1/2の補助があるが、これを全額補助としてもよいのではないか。

●事務局

鳥獣被害が大きな課題であるという認識はもっており、防護柵や電気柵の設置にかかる助成の拡充など、市も対策を講じているところである。

●委員

電気柵の設置や「わな猟」の資格取得の補助割合を高めるといった検討もしてほしい。

また、農業生産者への支援としては、塩田地域で実施した2キロにわたる電気柵の設置のように、個人農地ではなく、地域の農地を保護するような対策も検討願いたい。

●事務局

只今、ご指摘の課題は、関係所管と改めて情報共有する。

●委員

林業の振興の関係について、道路沿いの樹木が成長し、県道や市道を覆うように繁っている箇所もあるため、樹木の適切な管理をお願いしたい。

●委員

10ページ基本目標4-2-3①の成果指標「市内のJR駅利用者数（1日あたり）」について、年代別の利用者数など、具体的な調査を実施しているのか。

●事務局

本指標は、光駅・島田駅・岩田駅の利用者数の数値である。光駅に関する構想づくりなど機会において、利用者に関する個別の調査を実施している。

●委員

10ページ基本目標4-2-3①の成果指標「市内のJR駅利用者数（1日あたり）」について、評価がAとなっているが、光駅については、エレベーターの設置や駅の橋上化などの課題があるが、この点はどうか。

●事務局

光駅における橋上化などの課題については、これまでに光駅周辺も含めた一体的な整備のあり方を検討してきたところであり、本年度と次年度において、まずは光駅に焦点をあて、駅舎の見直しなどの拠点整備に係る計画づくりを進めていく。

●委員

光駅の拠点整備に関して、委員を募集しているのか。

●事務局

委員を募集している。

●委員

9ページ基本目標3-1-6①「生活保護世帯の自立件数（年度）」について、光市の生活保護世帯の全体数は。また、光市の数は、全国と比較して多いのか、少ないのか。

先ほど、農地における鳥獣被害の話題がでたが、事業所内にも鳥獣（イノシシやサル）が出没することがあり、捕獲に苦戦している。他の地域では、鳥獣を確保した後、ジビ

エ料理などで産業振興に取り組む地域があるが、光市はどうか。

●事務局

生活保護については、29年度の世帯数は444人であり、保護率は、光市が8.7%、全国が16.7%のため、本市の保護率は、全国に比べて少ない。

ジビエについては、市内においても関心をもつ方もいるが、郷土の特産化にするといった機運には至っていないため、引き続き、各地の取り組みを注視したい。

●委員

10ページの基本目標4政策2「道路網の整備」の評価がBとなっているが、瀬戸風線の進捗状況はどうか。

●事務局

瀬戸風線の整備にあたっては、国道188号に接続する際は、海岸沿いの工事も必要となるが、現在は、海岸沿いの工事の準備を進めている。

●委員

光総合病院の入口交差点が複雑だが、信号は設置されないか。

●事務局

警察とも協議をしたが、今のところ、交差点への信号設置の予定はない。

●委員

病院前の交差点においては、虹ヶ丘から（みちがみ病院方面へ）右折する車（直進車）と、（みちがみ病院方面から）光総合病院に入る車（右折車）、どちらが優先なのか分かりにくい。

●事務局

市立総合病院に入ろうとする車（右折車）が停車しなければならない。

●委員

光総合病院前の交差点は、通行面で紛らわしい。

●委員

13ページ基本目標5-1-6①の成果指標「有効求人倍率」については、全体の求人倍率は良いが、職種によって差があり、建設や飲食関係の求人は、人が集まらない厳しい現状である。この成果指標は全体のものか。

13ページ基本目標5-2-2①の成果指標「光市に愛着を持っている市民の割合」については、年配の方が愛着をもっている割合が多いのではないかと予想するが、若い方がどれ位の愛着をもっているかを分析するかが重要ではないか。

●事務局

「有効求人倍率」については、数値目標として、全体の数字を成果指標に設定をしている。

「愛着をもっている市民の割合」については、市民アンケートから結果をだしている成果指標であり、若い人の愛着の回答率については、データがあるため、分析する。

●委員

市民アンケートの回答については、若い方が少なく、60代以上の方の回答が多い。

●事務局

市民アンケートは、対象者として60代以上の人口比率が高いうえ、回答の回収率も高いため、高齢者の意見が多くを占め、反映されている。

●委員

高齢者の意見も貴重だが、若い世代の意見が少ないため、市民アンケートの結果をもとに政策に反映させるには、精査が必要ではないか。

●事務局

成果指標自体は、あくまでも結果を反映させている。これとは別に、年代別のクロス集計といったデータも所有しており、こうしたデータは関係所管と共有している。

●委員

成果指標をどの様に活用するのか、こうした点を明らかにするとよい。

●事務局

評価書については、あくまでもひとつの見方を提示したものである。

市としては、総合計画や総合戦略の進捗を客観的に評価するものである。

(2) 光市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定について

事務局から資料に基づいて説明ののち質疑意見等

●委員

資料で地方創生推進交付金に似た制度はこれまでにあったのか。

●事務局

地方創生推進交付金は、国が地方創生を進めるために設けた制度であり、産業振興をはじめ、人口を増やす取組みなどを地方に求める制度である。

●委員

人口減少問題への対策などを記載した資料は他にあるのか。

●事務局

すぐに示すことができる資料としては、第2次光市総合計画評価書となる。

最終的な成果や今後の課題は、別に情報を提供することとなる。

4 その他

○ 事務局から今後の予定等について連絡

- ・次回開催は3月を予定しているが、それまでの間に協議事項が発生した場合には別途開催する可能性もある（開催1ヶ月前には連絡を行う。）。

以上